

宝石の世界 その19

< 珊瑚（さんご） > その1

さんごは動物

珊瑚は古くから生息する動物です。
イソギンチャクと同じ刺胞(しほう)動物花虫綱というグループに分類されます。生き物としてのさんごはポリプともサンゴ虫とも呼ばれる小さな生物で海中に触手を伸ばしてプランクトンなどを捕食しています。私達が思い描く珊瑚はサンゴ虫が分泌した炭酸カルシウムの骨格が積層したものです。



さんごの種類

さんごは触手の数によって六放サンゴと八放サンゴに大きく分けられます。

・六放さんご

触手が6本またはその倍数のサンゴです。造礁さんごとも呼ばれます。褐虫藻と共生し光合成をおこなうため、比較的浅く暖かい海に生息しています。骨格自体は白や灰色が多いです。

・八放さんご

触手が8本のサンゴです。ソフトコーラルや宝石さんごなどが属し、深海など太陽光が届かない海に生息するものが多いです。

宝石珊瑚と呼ばれるアカ・モモ・シロサンゴは八放さんごに属し、深海などでゆっくりと育ちます。直径

宝石さんごの種類

・アカサンゴ

小さな枝が密集する濃い赤色のサンゴ。特に濃いものは血赤と呼ばれ珍重されます高知県の土佐沖が有名な産地です。

・モモイロサンゴ

赤に近い濃色から白に近い淡色まで幅広い色調を持ちます。宝石さんごの中では大きく成長します。日本沿岸を含む西太平洋地域に広く分布します。

・シロサンゴ

外観はモモイロに似ていますが、骨格は白・アイボリー・薄く桃色を散らしたものなどがあります。中部太平洋から日本沿岸、フィリピンなどに分布します。

・地中海サンゴ

色合いはアカサンゴに似ていますが、材質はやや柔らかいです。小型のさんご。浅めの水深に生息しているため海綿などの浸食を受けることがあります。サルデーニャ島、コルシカ島などの産地が有名です。